



# 第9回全国中高教育模擬国連大会

## ALL JAPAN EDUCATIONAL MODEL UNITED NATIONS

# 大会報告書



## 議題：AIと軍事

日時：2025年8月4日(月)～5日(火)

**場所**：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京・代々木)



# 目次

---

目次	1
大会実行委員長より	2
大会セクションリーダーより	3
第9回大会概要	6
受賞者一覧	7
議場講評・受賞者コメント	10
参加者アンケート	24
大会事務局長より	26
参加校一覧	27
大会実行委員一覧	28
大会役員一覧	29
後援・協賛企業一覧	30
次年度大会のご案内	30

# 大会実行委員長より

大会実行委員長 渋谷教育学園渋谷高等学校3年 斎藤央

皆さんこんにちは。第9回全国中高教育模擬国連大会で実行委員長を務めました、渋谷教育学園渋谷高等学校3年、斎藤央です。

大使の皆さん、準備期間を含めた数か月間、お疲れ様でした。会議当日はみなさんのご協力のおかげで議事を円滑に進行でき、大きなトラブルもなく無事に大会を終えることができました。誠にありがとうございました。大会が終わった今、改めて模擬国連という活動は素晴らしいな、と心から思います。

「模擬」という言葉がその名前に含まれてはいるものの、模擬国連の本質は、世界が直面する数多くの問題に対して、これまでとは異なる新たな解決策を提示するところにあります。特に、AJEMUNのように、中高生が大使となる会議ではそれはより一層際立ちます。中高生ならではの発想による政策立案や交渉、議論は、今の混乱した世界に新しい「正解」を示すような決議案の作成に繋がるはずです。

第9回AJEMUNでも、それはまさに体現されていました。今年度の議題は「AIと軍事」でしたが、どの議場でも、大使が真剣に議題と向き合い、国際社会全体としてこの難しい問題をいかに解決していくか議論している姿が見られました。特に、中学生議場が私の中で印象に残っています。

今年、AJEMUNでは中学生大使だけで構成された議場を開きました。私は議事進行の説明や、議論の方向性など、予測できない要素が多く、不安もありつつ会議当日を議長として迎えました。しかしながら、いざ会議が始まると、そのような不安はまるで嘘だったかのように消えてしましました。大使の議論のレベルは非常に高く、その成果は各決議案にもはっきりと表れていました。どの大使からも国際協力を目指す志と、自国の利益を守り通す強い意志を感じされました。昨今の国際情勢も踏まえ、これほど重要な議題を、こんなに若い世代が本気で議論している姿を、二日間の会議中目の当たりにしました。

私はこの議場を見て、模擬国連は本当にどんな人でも参加する価値のある活動であることを感じました。出身地や年齢に関係なく、全ての大使にとって、模擬国連に打ち込む時間は間違いなく有意義なものとなります。模擬国連から得られる論理的思考力や議論する力、他者理解の姿勢は、これから社会でも必ず役立つ貴重な経験になるはずです。

特に、「誰もが参加できる模擬国連」を理念に掲げ、全国で一番規模の大きい模擬国連の大会であるAJEMUNだからこそこう思いました。大使も運営も全国各地から集まり、中高生の考える模擬国連の理念のもと、中高生が議論できる会議は、他にはなかなかありません。AJEMUNはその点、とても特別な会議であり、運営・大使ともに、高い充実感を得られます。

模擬国連という活動が今後さらに発展し、世界のさまざまな課題に対する新たな解決の道を示し続けること、そして、AJEMUNが今後もその一端を担うことを心から願っています。

最後に、今年参加してくれたすべての大使の皆さんに、改めて心からの感謝を申し上げます。ぜひこれからも、中高生がどれほどの力を持っているのかを、世界に示し続けてください。

来年もまたお会いできることを楽しみに待っております。

# 大会セクションリーダーより

フロントセクションリーダー 浅野高等学校3年 中田侑之介

皆さん、お久しぶりです！

今年度のAJEMUNでフロントセクションリーダー兼A議場議長を務めさせていただきました、浅野高校3年の中田侑之介です。

まずは、二日間本当にお疲れさまでした。実行委員として関わるAJEMUNは、これまで大使として参加してきた景色とはまったく違い、「大会を創る」という裏側の努力と情熱を間近で実感できる場でした。顧問の先生方、事務局の皆さん、実行委員の仲間、そして大使の皆さん—その全員が一つになってAJEMUNを形作る。この貴重な経験を自分の肌で感じられたことは、本当に光栄です。心より感謝申し上げます。

大会プログラムの挨拶でもお伝えしましたが、私は模擬国連を「新たな何か」への架け橋だと思っています。皆さん、この二日間でどんな発見や気付きがありましたか？ それはきっと、いつかの自分の糧となり、新しい自分との出会いに繋がるはずです。

私事ですが、今回が初めてフロントとして模擬国連に携わる機会でした。正直、不安と緊張、それから“何が起きるかわからない”というワクワクと共にフロントセクションリーダーに申し込んだのを今でも鮮明に覚えています。実行委員としての5ヶ月間は、まさに発見と気付きの連続でした。議長として見る議場の景色、大使の表情、議論の流れ—ミクロからマクロまでの視点を行き来しながら耳を澄ますと、大使としてでは決して見えなかつたものが鮮やかに浮かび上がります。AJEMUNは、関わるすべての高校生に等しく、そんな成長のきっかけを与えてくれる場です。AJEMUNの「教育」という言葉はまさにそのことをしているのだと自分は思います。皆さんがこの二日間で見つけた何かへの架け橋を、自分の中で咀嚼し、経験や知恵に変えて、未来の成長へと繋げてくれることを心から願っています。

……と、少し堅くなってしまいましたが、最後に！

高校生の大使の皆さんにはぜひ、AJEMUN実行委員に挑戦してほしいです！ 大使として見るAJEMUNと、実行委員として創るAJEMUNは、まさに180度違う景色が広がっています。そして来年のAJEMUNを創るのは、まさに今この文章を読んでいるあなたです！ 過去から現在、そして未来へと、一本の糸が静かに、そして力強く紡がれていく—その瞬間に関わることは、本当にかけがえのない経験です。

改めて、この二日間お疲れさまでした。皆さんこれからのご活躍、そしてAJEMUNがさらに多くの高校生のもとに届くことを、心より祈っています。

運営受付セクションリーダー 公文国際学園高等部3年 田嶋万桜

皆さんこんにちは。運営受付セクションリーダーを務めました、公文国際学園の田嶋万桜です。AJEMUNにご参加いただきました皆さん、会場まで足を運んでくださった皆さん、誠にありがとうございました。こうして、無事に大会を終えることができ、私個人としましてはとてもホッとしています。今年度の大会の参加校は110校を超えて、昨年度よりもさらに多くの学校から沢山の方にご参加いただき、開会式閉会式が急遽二つの会場で行うことになるなど、本当にたくさんの方にAJEMUNを知っていただくことができていて、どうぞよろしく思っています。

大使の皆さん、会議はどうだったでしょうか？ 今大会の議題は「AIと軍事 AI and the military」という、いままさに世界が直面している深刻な課題の一つでした。日本各地から集まった同年代と同じ場所で、このような複雑で重要な議題について考えるという機会は普段生活している中でなかなか行わないことだと思います。だからこそ、模擬国連が、このAJEMUNが、みなさんのこういった問題に向き合い世界について考えるという一つのきっかけになっていることを願っています。この会議で学んだこと、考えたことは必ず今後生活している中での大きな糧となります。どうかこの会議のことを

忘れずにたまに振り返ってみてください。

私たち運営受付セクションでは大使の皆さん方が会議に集中できるように各議場のアドミニであつたり、クローケであつたりを担当するだけでなく、引率者や見学者の方々へ向けたAJEMUNではどういったことを行っているのかの認知を広める見学ツアーの開催であつたり、大使に向けた各地から集まった同年代と交流し新たに交友の輪を広げていただくための交流会の開催を行ってきました。交流会では多くの方にご参加いただき、会場全体が参加された皆さまのおかげでとても盛り上がりっていましたように感じました。時間が押してしまい準備していた通りに進めることができなかつたことが悔やまれますがみなさんが全力で楽しんでいて私たちもとてもうれしかったです。運営受付セクションは会議の進行にはあまり直接関わりませんが、事前に多くの会議を重ね参加される大使の皆さんや、ご来場になる方々がこの大会に集中し、楽しんでいただけるように例年より少し少ない人数ではありましたでしたが入念に準備を行ってきました。校外の模擬国連にはじめて参加するメンバーもいる中、約半年間事務局の方々や実行委員、他にも多くの方々のお力のおかげでこうして無事大きな問題が起こることがなくAJEMUNを終えることができたことこの場をお借りして感謝申し上げます。

最後に、第9回全国教育模擬国連(AJEMUN)にご参加いただいた皆さん、今回限りで終わらせるのではなく、ぜひ他の模擬国連や次回のAJEMUNに参加して世界の問題について考えるのをやめないでください。大使でも、実行委員でも模擬国連にかかわり続けることが自分の大きな糧となり、大きな成長となります。

皆さま本当にありがとうございました！

私たち実行委員は多くの方の協力のおかげでこうして大会を運営しています。

#### 広報セクションリーダー 大妻高等学校2年 吉野紅彩

ごきげんよう。第9回全国中高教育模擬国連大会の広報セクションリーダーを務めさせていただきました、大妻高等学校3年の吉野紅彩です。

皆さん、今回のAJEMUNで何かを手に入れることはできましたか。この大会は、全国各地から集まった中高生が一堂に会し、普段の練習会議では出会えない仲間と共に議論できる、極めて貴重な場です。大使の皆さんのはくは賞を目指して参加していると思います。それも素晴らしい目標ですが、私は模擬国連がそれ以上の価値を持つ場であると考えています。

中高生という人生の重要な時期に、国際的な視野を持ち、大人でも頭を悩ませる課題について真剣に議論する。その経験こそが、この活動の最大の財産です。そして、その姿は会場だけでなく社会にも広く伝える価値があります。私たち広報セクションは、その橋渡し役として大会前からSNSによる情報発信、会議中のリアルタイム投稿、写真・動画記録、フロントインタビューなど多方面から大会の魅力を発信しました。その結果、大会期間中の公式SNS総インプレッション数は46万回を超え、フォロワー数も前大会比で136%増加するなど、全国から多くの反響をいただきました。広報活動とは単なる記録ではなく、参加者の努力や熱気を社会に届ける重要な役割です。全国中高教育模擬国連大会という大舞台でその使命を果たせたことは私にとって大きな誇りであり、同時にSNS運営の難しさなどのさまざまな学びを得ることができました。

そして、私が何より今大会に参加してくださった皆様にお伝えしたいことがあります。それは、ここで出会った「縁」を大事にすることです。同時期に同世代が同じことに興味を持って熱く議論する。こんなに自分にとって最高の仲間を手に入れられる機会はありません。あなたがあの日出来た友人は、あなたの夢を真剣に応援してくれて、互いに刺激し合い、自分の背中を押してくれる、戦友であり最高の仲間になるでしょう。何故わかるかって？私が中学3年生から始まったこの4年間の模擬国連人生で出会った友人たちがまさしく私にとってそういう存在だからです。自分が愛した模擬国連人生の最後をAJEMUNの運営として迎えることができたことに、本当に感謝しています。

最後に、この大会の運営を支えてくださった皆様、そして共に挑戦したすべての参加者に、心より感謝申し上げます。どうかそれぞれの目標を見失うことなく、これからも模擬国連人生を歩んでください。ここで得た経験や出会いは、必ず皆さん的人生の糧となるはずです。皆さんの今後の輝かしい活躍を、心からお祈りいたします。

またどこかでお会いしましょう。ごきげんよう。

# 第9回大会概要

大会名 : 第9回全国中高教育模擬国連大会(AJEMUN)

開催日時: 2025年8月4日(月)・5日(火)

開催場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター

開催方法: 対面での会議

議場方式: ハーバード形式(全日本高校模擬国連大会と同じ方式)

議題 : AIと軍事

使用言語: 日本語

参加費 : 3000円/人

主催 : 全国中高教育模擬国連研究会(全模研)

## 【大会スケジュール】

1日目: 8月4日(月)		2日目: 8月5日(火)	
9:30	開会式	9:20	会議再開
10:30	会議開始	11:45頃	昼食
12:30頃	昼食	13:30	DR提出
15:40	WP提出	15:15	会議終了
16:45	会議終了・諸連絡	15:45	閉会式

## 【基調講演】

落合 陽一(おちあい よういち)氏

筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター長/准教授

### 〈プロフィール〉

筑波大学でメディア芸術を学び、東京大学大学院学際情報学府にて博士号取得。応用物理、計算機科学を専門とし、研究論文は難関国際会議Siggraphなどに複数採択。現在、筑波大学デジタルネイチャー開発研究センター長/図書館情報メディア系准教授・ピクシーダストテクノロジーズ(株)代表取締役会長CEO。内閣府、厚労省、経産省の委員、2025年大阪・関西万博のプロデューサーとして活躍中。



# 受賞者一覧

## 受賞者一覧(一般議場)

### 【A議場】

最優秀賞

South Africa

渋谷教育学園渋谷高等学校

後藤 真由子・橋本 結花

優秀賞

Niger

学校法人角川ドワンゴ学園 N高等  
学校

浦山 結太・木村 瑞音

優秀賞

United States

浅野中学校・高等学校

岡本 侑理・風呂光 克音

実行委員特別賞

China

渋谷教育学園幕張高等学校

佐川 心埜・三宅 結衣

### 【B議場】

最優秀賞

Russian Federation

渋谷教育学園渋谷高等学校

坂本 留梨子・丹羽 太郎

優秀賞

United States

海城中学高等学校

佐本 一樹・南部 航希

優秀賞

Canada

西大和学園高等学校

山田 逢介・富田 幹裕

実行委員特別賞

Libya

大妻高等学校

阿部 凜香・上遠野 千早

### 【C議場】

最優秀賞

Canada

公文国際学園中等部・高等部

伊藤 優那・大澤 初音

優秀賞

Panama

海城中学高等学校

長谷川 浩鷹・松尾 治輝

優秀賞

Japan

名古屋高等学校

竹内 駿介・松岡 紘平

実行委員特別賞

France

渋谷教育学園渋谷高等学校

佐藤 笑理・津谷 凜司

## 受賞者一覧(初心者議場)

---

### 【D議場】

最優秀初心者賞

Austria

中央大学杉並高等学校

嶋村 翔・河本 清香

優秀初心者賞

Chile

昌平高等学校

新井 海羽・金沢 千世

優秀初心者賞

South Korea

中央大学杉並高等学校

菊地 麻友・佐藤 玲奈

実行委員特別賞

Bangladesh

国際基督教大学高等学校

加藤 壮太郎・岸本 想奈

### 【E議場】

最優秀初心者賞

Russian Federation

中央大学杉並高等学校

植木 利花・中山 貴美子

優秀初心者賞

United States

帝塚山学院中学校高等学校

平岡 佑梨・若林 愛子

優秀初心者賞

Philippines

山形県立山形東高等学校

高嶋 隼成・志田 春樹

実行委員特別賞

South Africa

かえつ有明高等学校

稻吉 健太・久保 伊幾

### 【F議場】

最優秀初心者賞

Israel

神奈川大学附属中・高等学校

小出 風花・高山 由菜

優秀初心者賞

Austria

山形県立山形東高等学校

石井 嵩志・今野 湊

優秀初心者賞

Costa Rica

昭和女子大学附属昭和高等学校

萩森 桃葉・田崎 友梨

実行委員特別賞

Russian Federation

東京都市大学等々力高等学校

丹那 栄翔・西 道翔

## 受賞者一覧(中学生議場)

---

### 【G議場】

中学生議場最優秀賞

New Zealand

海城中学高等学校

中川 侑志・竹村 是清

中学生議場優秀賞

United States

渋谷教育学園渋谷高等学校

柳井 十和・佐藤 希

中学生議場実行委員特別賞

India

駒場東邦高等学校

荒川 奏和・野崎 日奈太

# 議場講評・受賞者コメント

## A議場

【フロントより】

浅野高等学校3年 中田 侑之介  
玉川学園高等部2年 ハサンザディビタ  
歐友学園女子高等学校2年 江尻 あい  
共立女子高校2年 北川 眞子

[議長 中田侑之介]

A議場にて議長を務めさせていただきました。会議冒頭では、会議設計におけるLAWsの意図的な曖昧性について、多くの大使が疑問や確固たる信念を抱きながら議論を開始し、フロントとしてもその行方に思いを巡らせておりました。しかし、一般議場ならではの絶え間ない「対話」と「交渉」を重ねる中で、会議後半には各大使が自らの答えを見出し、それを決議案としてまとめ上げる姿が非常に印象的でした。フロントとして、このように激しく変化する議論と交渉の現場に立ち会えたことは、大きな光栄でございます。二日間、本当にお疲れ様でした。皆様の今後のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

[会議監督 ハサンザディビタ]

私は本大会において、参加国の選定ならびに議場の国割も担当いたしました。国選定では、論点二において明確な立場を示していない国を全体の半数選び、大使各位が世界で誰一人として全貌を把握していない課題に、存分に主体性をもって挑めるよう尽力しました。A議場の大使と向き合った時、限られた時間と多数の参加国という厳しい条件下でも、求めていた情熱を超える気迫が伝わり、フロント冥利に尽きる思いでございました。

他方、他の大使の公式発言への態度やスポンサーの役割など模擬国連の基本規範を確実に理解し心構えとされれば、次回はより一層充実した会議となるでしょう。A議場の大使方であれば、「誰一人取り残さない」模擬国連会議を何度も創れると信じております。

[セクレタリー 江尻あい]

今回の議題は「AIと軍事」でした。フロントとして議場全体を見渡す中、代表の方々が真剣に意見を交わし、熱い議論が続く様子に胸が高鳴りました。AIに対し明確な立場を表明している国が多くない中、それぞれが自国の立場からしっかりと考え、堂々と発言されている姿はとても印象的でした。このような場に立ち会えたことを心からうれしく思います。準備期間から二日間にわたる会議、本当にお疲れさまでした。フロントとして、これはどのレベルの高い議論を間近で見られたことは貴重な経験でした。皆さんのが今後のご活躍を心より応援しています。またお会いできる日を楽しみにしています。

[セクレタリー&BG執筆 北川眞子]

私はフロントを務めたとともに、BGも執筆したため、BG担当としての講評を書こうと思います。本大会の議題「AIと軍事」。この議題を思いついたきっかけといたしまして、昨今の模擬国連では支援をする側、される側に分かれる形が定番化しており、その定番の枠に縛られないような、『今までにない新鮮な議論』をしたいと思ったことが始まりでした。そこで「支援、導入ではなく、使用する前提のAI会議」は面白いのではないか?と考え、本議題にいたしました。けれども、最終的には話し合うべき内容をあれこれ持ち出したらキリがないような膨大な論点になってしまい、大使及び会議運営の方々に申し訳ない気持ちでいっぱいでの、会議当日が不安でございました。しかしA議場は、そんな私の不安を容易く打ち砕いてくれるような、元々の私の願いであった『今までにない新鮮な会議』を繰り広げてくれました。グルーピングのモードでは多種多様なグルーピング案が提出されたり、最後のロールコール投票では、自国がスポンサーをしているDRにNoと言う大使がいたり、初めてのことが沢山起きた議場でした。A議場全員が議論を白熱させてくれたかつこ

の議題に本気で向き合ってくれていることを実感し、大使の皆さんには感謝でいっぱいです。本大会のBGをかけて、大変光栄でした、ありがとうございました。

### 【最優秀大使コメント】

**South Africa大使 渋谷教育学園渋谷高等学校 後藤 真由子・橋本 結花**

A議場で南アフリカ大使を務めました、渋谷教育学園渋谷高等学校二年の橋本結花と後藤真由子です。始めに、大会運営に携わってくださった実行委員の皆さん、先生方、大使の皆さんに心より感謝申し上げます。

皆さんは「強い大使」と聞いて、真っ先に何を思い浮かべますか？

声の大きさでしょうか。リーダーシップでしょうか。それとも論破力でしょうか。私たちは、自国の背景を踏まえた上で、過去と未来をつなぐ線上にある一つの会議に意味を持たせられる大使こそが本物の「強い大使」だと考えます。

私たちは、まさにこの会議が「線上的点」であるということを言い聞かせながら会議に臨みました。模擬国連の会議は一度きりであっても、現実の国連にとって一つ一つの会議は、それまでの議論、そしてそれからの議論を結ぶ「通過点」です。だからこそ、私たちは南アフリカ大使としてのスピーチや政策、他国との交渉などの一つ一つの行動を、国連総会やその他の機関で積み重ねられてきた議論の「流れ」の延長線上に位置づけることを意識しました。

そのためには、やはり、リサーチが欠かせませんでした。過去の決議案を読み、議論の経緯や対立点を整理し、それに基づいた政策を提案するのは決して簡単ではありませんでした。しかし、このように積み重ねた努力は、当日私たちを何度も救ってくれました。会議中に飛んでくる鋭い質問や指摘。いつもであれば萎縮してしまう場面でも、リサーチで培った知識のおかげで的確な返答ができる自信につながりました。

私たちが担当した南アフリカは、世界でも数少ない、核兵器を自主的に放棄した国です。国力と引き換えに平和を選択した南アフリカは、核兵器のように持つものと持たざるものとの間で分断が生じる前にいち早く自律型致死兵器を全面禁止するべきだと考えています。そのため、私たちは平和を重視するアフリカ連合の国々と協力し、国際社会で声がかき消されがちなグローバルサウスの意見を反映させることを大切にしました。

残念ながら、私たちの決議案は最終的には採択には至りませんでした。「国際社会に文書が残らなければ意味がない」という意見は至極真っ当です。しかし、提出された決議案に、無視されがちなアフリカ諸国の意見がしっかりと反映されていたことは、とても意義深いと考えています。反省点も多くありますが、これは全大使が、提案された妥協案を鵜呑みにするのではなく、自国の国益そして国際益と真剣に向き合った証であると信じています。

最後に、AJEMUNを通して、他校の高校生と共に学び、成長する機会をくださった皆さん、本当にありがとうございました。この会議を通じて、答えのない問い合わせに挑む全国のもぎこつかーの皆さんと出会い、真剣に議論を交わせたことを大変嬉しく思います。再びお会いできる日を楽しみにしています。



A議場の皆さん

## B議場

### 【フロントより】

渋谷教育学園渋谷高等学校2年 小島 杏里  
聖心女子学院高等学校2年 伊藤 佳那子  
共立女子高校2年 鈴木 花果

### 【会議概要】

B議場では初日に全面規制(×2)、EU、一部重規制、一部軽規制(×2)の6グループに分かれ、序盤から積極的な交渉が展開されました。特にLAWSの「定義」や「規制範囲」をめぐってはグループ内外で深い対立が見られましたが、全大使が解消に向け粘り強く取り組んでいました。

二日目のWP質疑応答モードでは鋭い指摘や説明が飛び交い、議論の質の高さが際立っていました。最終的に3本の決議案が提出され、惜しくも全て否決されましたが、最後まで自国益を貫きつつ交渉に励む大使の姿は圧巻でした。

積極的で熱意ある大使が多く、提案・質問ともに活発で、フロントとしても大きなやりがいと楽しさを感じられる議場でした。

### 【講評】

「聞く」という行為は単純なようで、実は難しいことだと感じます。しかしB議場では、互いの議論を真摯に受け止め、対話を重ねる姿勢が印象的で、結果として開かれた交渉が実現しました。終始、実りある優しい議場でした。このリスペクトの心を今後も大切にしてほしいと思います。

また、本会議では「なぜ今、国連総会で議論するのか」という問い合わせが重要でした。B議場では、CCWの停滞を踏まえつつ、その反省のみならず、積み上げてきた成果をも活かした国益設定・議論が多く見られました。過去の「点と点をつなげる」視点が、本会議の意義を際立たせていきました。

一方で、決議案については生成AIに関する独自の政策が光った一方、LAWSの議論が表層的にとどまつた印象です。例えば、進行中の紛争や、NGO・民間の役割等を含めた多角的な議論もあれば、より深みのある決議案になったのではないかでしょうか。

更に、文言・内政・外交が独立し連携が薄かったこと、3グループ間の対立解消が個別交渉に偏ったことも課題として残りました。常に議場全体を見渡し、その時に必要な議論・交渉を考え、役割を超えた共通認識を作り上げることが重要だったように思います。

最後に、模擬国連は極めて特殊な競技です。何が評価されるのか、何を目指す会議なのか。考えれば考えるほど分からなくなります。そんな曖昧で不確実な模擬国連に何を見出しかは人それぞれですが、私達は、会議が「心から楽しかった」と思えることが一つの大切な指標だと感じています。大使の皆様が準備してきた信念や政策を議場にぶつけ、最後まで全力で走りきれたなら、とても嬉しいです。

大使の皆様も、フロント一同も、二日間を通して多くの学びや気づきを得たと思います。この経験が皆様の更なる挑戦に繋がっていくことを願っています。

改めて、共に温かく、実りある会議を作り上げてくださった大使の皆様、大学生スタッフ、そして引率や役員の先生方に心から感謝申し上げます。

### 【最優秀大使コメント】

**Russian Federation**大使 渋谷教育学園渋谷高等学校 坂本 留梨子・丹羽 太郎

B議場でロシア大使を務めました、渋谷教育学園渋谷高等学校2年の坂本留梨子と丹羽太郎と申します。

今大会の議題は「AIと軍事」という、非常に現代的かつ難解なものでした。軍事用AIは倫理的懸念や技術的課題が多く残る中、人的被害削減や攻撃精度の向上を理由に近年激化している戦場では複数の使用例が確認されています。この議題において、2022年から続くロシア・ウクライナ戦争により国際的な非難を浴びているロシア連邦が担当国だと知ったとき、私たちは頭を抱えました。ロシア政府が公開している数少ない情報の中にはAIの軍事利用の促進という思惑も感じられ、議場において孤立してしまうことが一番の懸念でした。そのため、準備段階から出来る限り多くの国に共感して貰えるような理論をベースに政策を組み立てました。

大会当日はアンモードが開始されると軍事用AIの規制におけるスタンスをもとに議場は五つに分かれ、私たちは「部分規制」の立場をとるグループの一つに所属しました。自グループには内戦やテロによりAIの軍事利用を必要とする発展途上国が多く集まり、倫理的な価値観をもとに完全禁止を主張するEU諸国に代表される先進国と比べると弱い立場でした。しかし、全加盟国が一律に一

票を持つ国連総会では対等な関係で交渉できることが大切です。全員の国益の最低ラインを担保したコンセンサス文書作成の必要性について他グループを説得し、会議としての成果を残すことに尽力しました。

結果的には対立DRという制約もあり、提出された三つの決議案は全て否決されました。多くの大使がロシア大使の提案するコンセンサス案に賛同し交渉してくれたものの、二日間という短い時間で66カ国全ての些細な違いを乗り越えることはやはり難しかったようです。ですが、この結果は各大使がリサーチをもとに自国の立場を理解した上で、会議開始の瞬間から投票行動まで自國益を貫き通したことの表れでもあります。国連という舞台で国を代表する大使として、自國益・自国民は最優先すべきことです。そのため、否決されたとはいえ、私たち高校生が世界規模の課題と真摯に向き合い共に議論し作り上げた決議案には大きな意義があると考えております。

また、当日はAJEMUNという国内最大規模の大会で様々な地域から集まる参加者と交流する中、それぞれの活動形態の違いに驚かされました。私たちの学校では模擬国連部の活動は非常に盛んであり、日本全体で見ても模擬国連に取り組む高校生は年々増加していますが、中には校内に部活が存在しなかったり一緒に取り組む仲間がいなかったりする生徒も多くいます。それでも積極的に模擬国連活動に取り組み、会議外でも試行錯誤しながら自発的に活動を作り上げる参加者の姿に感化されました。私たちも今大会での経験や出会いを糧にこれからも全力で模擬国連活動に取り組んで参ります。

最後に、末筆ではございますが、この大会の開催を可能にしてくださった運営の方々、顧問の先生方、協賛者の方々、そして二日間共に議論を重ねた大使の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



B議場の皆さん

## C議場

### 【フロントより】

渋谷教育学園渋谷高等学校3年 二井 春香  
岐阜県立岐阜高等学校2年 平松 佑菜  
三輪田学園高等学校3年 朝倉 菜摘

AJEMUNに参加された皆さん、本当に疲れさまでした。C議場は65カ国、参加者100人を超える大規模な会場であり、その分グループ内外での意思疎通や意見集約の難しさを多くの大使が実感されたことだと思います。最終的に2つの決議案は否決されましたが、「AIと軍事」という複雑で対立を生みやすい議題に対し、大規模ながらも建設的な議論を重ね、文言を作成した点は高く評価されるべきです。しかし、多くの大使がグループピングを話し合う初期段階からLAWSの規制が争点になると予測していたからこそ、もう少し早い段階から交渉を始めてもよかったですのかなと感じます。1日の時点で各大使が自国の目標とそれにつながる行動を意識していれば、より深い議論に繋がったかもしれません。最後に、C議場は非常に活気にあふれていて、議論も活発な議場でした。これからもその熱意を模擬国連にぶつけてみてください！

(議長 二井春香)

大使の皆さん、2日間お疲れさまでした！今回は議題も論点も複雑で時間に追われる事が予想されていました（実際そうでした）が、限られた時間の中で最良のDRを追求する姿勢、とても感動しました。提出された2本のDRはいずれも否決されてしまいましたが、結果だけで良し悪しを計れるような会議ではありません。過程を今一度振り返り、自分自身に還元してほしいです。

1つ指摘するところがあるとしたら、会議への細かな態度でしょうか。大使の中には知り合いがいた方も多かったと思います。知り合いに対しては口調や態度が碎けたものになることもあるでしょう。ですが、それと会議は全くの別物です。会議中は全員が一国の大使なのですから、相手に失礼な事を言えば国際問題に発展しかねません。自分の軽はずみな一言が、国際協調を妨げる可能性もあるのです。あくまで「模擬」とはいえ、そこまで考えたうえでの行動・言動が求められているということを忘れないでほしいです。

私としても学ぶことが多い会議でした。この会議が皆さんのもぎこつか一魂に火をつけられたのなら幸いです。またお会いしましょう！

(会議監督 平松佑菜)

大使の皆さん、2日間お疲れさまでした。C議場では、当初の大きなグループからそれぞれのスタンスに合わせてグループが細分化され、各国が国益を反映できるような会議行動がとれていたと感じます。その中で対立が生じやすい「AIと軍事」という議題で、各グループが自らの立場をしっかりと確立したうえで他グループとのコンバインに臨む姿は素晴らしいです。少し残念だったことは、DR提出後の会議行動です。他国と交渉を続ける大使がいる一方、議論に参加していない大使も多く見受けられました。提出後の短い時間ですがこの時間でYes・Yes交渉など、有効的に時間を使える大使がもう少し多くいればDRの採択結果も何か変わったのではないかでしょうか。

私は今回が初めてのフロントで拙い部分も多々あったかと思いますが、皆さんのおかげで有意義な時間を過ごすことができました。今会議の経験を活かしてこれからの模擬国連も頑張ってください！

(セクレタリー 朝倉菜摘)

### 【最優秀大使コメント】

Canada大使 公文国際学園中等部・高等部 伊藤 優那・大澤 初音

2025年全国中高教育模擬国連大会にカナダ大使として参加させていただきました、高校2年生の伊藤優那です。この度は、最優秀賞をいただけたこと、心より嬉しく思っております。今まで私は模擬国連に何度も参加し、本当に議場に貢献できる大使になるにはどうすれば良いか、ずっと自問自答してきました。

過去に参加してきた模擬国連では、リーダーをとったものが勝ちで、そうでない者は負け、という印象が強く、本来の模擬国連の主旨とは異なるように思えて、もしこれが模擬国連であるならば、引退も考えていました。

しかし、1年前にこのAJEMUNに参加した時、私の議場で最優秀賞を受賞した大使は、どんな時も他大使や議長への礼儀を大切にし、「リーダー」であることにこだわらず、とにかく議場のために何ができるかを常に考えて動いていた大使でした。

私には足りないところを多く持っているなと思ったと同時に、「リーダーがすべて」ではないんだなど、自分の考えが変わった瞬間でした。この時からずっと、この大使のようになることを目標に、何度も大会に出場してきました。

そして今回、今まで学んできたすべてのことを活かし、結果としてこのような賞をいただけて、本当に嬉しく思っています。

2日間、本当に貴重な経験ができたこと、また、このAJEMUNの運営に携わったすべての方に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

この度は、第9回全国中高教育模擬国連大会に参加し、最優秀賞という非常に栄誉ある賞をいただけたこと、心より感謝申し上げます。C議場でカナダ大使を務めさせていただきました、大澤初音です。

皆さんは、模擬国連の魅力はどこにあると思いますか？私は「競争」と「共創」——この相反する二つの熟語のバランスにあると考えています。「競争」は、自分の国の国益を考え、トップラインで決議案を出せるようにするために、根拠を示し、時には反論を重ねて、国際社会にそれを反映させる力。一方「共創」は、国際益を考え、どの国も取り残さず共通の方向・目標に進めるようとする力。どちらのスキルも、大使として欠かせないものであり、そのバランスこそが模擬国連の醍醐味だと感じました。

模擬国連は学校では得られない「生きた学び」を得ることができる場です。調査・対話・協力を通じて、わずか二日間で想像もできないほど多くの事を学び、成長することができます。特に、本大会では、一人一人が各国の大使としての責任を持ち、「国際平和」という未来に向かって真剣に行動していたことが強く印象に残っています。模擬国連でしか得られない経験、知識、成長が詰まった濃密な二日間でした。

改めまして、このような貴重な機会をくださった大会関係者の皆様、協賛団体の皆様、共に議論を重ね、学び合えたすべての参加者の皆様、そして私たちを支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。

これからも、私たちなりの模擬国連を追求し、向き合っていきたいと思います。



C議場の皆さん

## D議場

### 【フロントより】

玉川学園高等部2年 松澤 凜歩  
中央大学杉並高等学校2年 萩原 育斗  
淑徳高等学校3年 大久保 鈴音

#### [議長 松澤凜歩]

D議場では、多くの大使が自ら議論を牽引しようとする姿が光っていました。初心者とは思えないほど、一人ひとりが積極的に発言していたことが印象的でした。一方で、グループ全体での共有がやや不十分だったようにも感じます。大きなグループでの議論より、数ヶ国での交渉や話し合いの場が目立ちました。そのため、議論を進行するリーダーには「誰一人取り残さない議論」を行う責任が求められます。例えば、大使同士が互いに顔を合わせられるような大きな円を作り、全員に平等な発言機会を設けることで、情報共有はより一層円滑に進むと思います。

また、もう少し大局的な視野を持つことで、議論はより深みを増したはずです。各グループの方向性が定まらないまま、コンセンサスに向けて動く場面もありました。もちろんコンセンサスを目指すことも大切ですが、大使として国益を意識する視点も欠かせません。

次回の会議では「国際合意と国益のバランス」を意識しながら臨むことで、さらに充実した議論が展開されることを期待しています。2日間、本当に疲れさまでした！

#### [会議監督 萩原育斗]

D議場はそれぞれの大使が会議を前に進めようと努力する様子が光る議場だったと思います。一日目の初めには、模擬国連ではもはや定石となっているグルーピングのためのモードがなく、議場の混乱が予測されました。しかし各大使の協調性により各国の国益を意識したグループを作成できており、とても感動しました。また、論点に対しての考え方の違いなどで各グループが混乱する様子が見られましたが、フロントへの質問やグループ内での協議などのその都度確認して進めて行くことにより、議論に誰も取り残さないという姿勢を形成できていました。国連という度の国も対等である世界において、このような姿勢は最も重要であり、今後も持ち続けてほしいと感じました。これからも活躍を期待しています。

#### [セクレタリー 大久保鈴音]

序盤は一部の大使が中心となって議論を進めていましたが、後半になるにつれてほとんどの大使が積極的に参加し、議場全体が一気に活気づいていきました。さらに、グルーピングでは人数を重視する動きもありましたが、それぞれが自国の利益を考えて動く姿も見られました。初心者議場でありながら提案や意見交換の内容は非常に水準が高く、その戦略性に深く感心いたしました。また、全体的にコンバインを意識するあまり方向性がなかなか定まらない場面もありましたが、その後半の盛り上がりと団結はとても印象的でした。今回の経験を糧に、今後さらに素晴らしい活躍をされることを心より期待しております。

### 【最優秀初心者大使コメント】

Austria大使 中央大学杉並高等学校 嶋村 翔・河本 清香

今回、AIと軍事というテーマでオーストリア大使として参加した。今大会でもっとも苦戦した点の一つは事前準備での下調べである。AIを使用したサービスが拡大途中の現在、まだ国際連合でも議論があまり行われておらず、事実、国連決議にもAIという文字は見られなかった。そこで私は本会議を国際的なAIの利用の規制に関する大きな第一歩にすべきであると考え、よりよいAIとの共存のためにも世界全体で現実的で遂行可能性の高いもの

にする必要があると思案した。そのため、AIの利用のためのガイドラインを作成するという政策を提案し、多くの国から賛同をいただいた。さらに他の国が考えていた各國益に沿った政策と合体することで、お互いの国益を守りながら、よりよいAIの利用に向けたルール作りに向けた話し合いを進めることができた。これはまさに国際社会に必要な相互理解、協調が行われた瞬間だと感じた。

一方、本会議の議題には軍事用AI誤作動時の責任帰属についても含まれていた。事前にNPを読むとそれぞれの国でどこに対して責任を課すべきかについて意見が分かれていた。そのため、グループでの相互理解を図るために、それぞれの提案国になぜその責任対象に責任を課すのか

を聞き、それぞれの利点を最大化できる責任基準を設けるように心がけた。最終的には再発防止の多様性の観点からも事前に講じた対策などによって責任を柔軟に分担する共同責任とした。

本会議を通じ、私は国連ならではの多角的な視点の持ち方の重要性を感じた。ある一つの政策を考えた場合に、一部の国にとってはメリットとなる政策も、他の国ではデメリットとなりうる。このような国際会議の中で重要なことは、それが即座に対立、否定されることなく、なにを目的としているのかなどについて傾聴することだと思った。最後に、本大会に携わったすべての皆様、D議場の大天使に感謝を申し上げたい。



D議場の皆さん

## E議場

### 【フロントより】

清教学園高等学校3年 久保 あいり  
岐阜県立岐阜高等学校2年 前原 悠作  
共立女子高校2年 福岡 加帆

はじめに、大使の皆さん、準備期間ならびに大会二日間、本当にお疲れさまでした。皆様の会議の様子を拝見できましたこと、大変光栄に存じます。

1日目は、緊張している様子がうかがえました。1回目の動議募集では、グルーピングについてのモデが提案されましたが否決され、アンモデから始まりました。アンモデでは経済別・地域別の細かいグループに分かれて議論が進められました。各国は国益を意識し、自国がそのグループに所属して良いかを慎重に考えつつ、他の大使の話を聞きに行ったり、自国のスタンスを表明したりしていました。WPは4本提出され、説明を経て1日目は終了しました。2日目は、緊張がほぐれたのか、1日目以上に白熱した議論となりました。初めに1日目に提出されたWPの説明を行い、各国がスタンスを再確認したうえでアンモデが始まりました。議論の随所から、決議案を提出したいという強い意志が感じられました。最終的に2つのDRが提出され、いずれも可決されました。どの大使も自国の国益を尊重しつつ、ペアと連携を取りながら慎重に議論に臨んでいました。初日は全体的に緊張感がありましたが、初心者議場ならではの型にとらわれない流動的な進行で、多くの大使が積極的に会議に参加しようとする姿が見られました。その後、徐々に模擬国連らしいグルーピングの形となり、中心となる大使に情報が集まりやすくなりました。その結果、議場全体での議論内容が共有されやすくなり、WP提出にもスムーズにつながりました。LAWSに関する議論では、定義の確認から始まり、活発なやり取りが行われました。このことからも、しっかりとリサーチをして会議に臨んでいることがうかがえました。DR提出時には、WP段階で見られた書式上の誤りもほとんどなくなり、内容面でも合意が取れた良いDRとなっていました。最後に、フロントからアドバイスを述べさせていただきます。会議中にも申し上げたとおり、WPやDRを提出した後のアンモデには、まだできることがあります。文書の精度をさらに高めることや、yes-no交渉を行うことなど、可能性は多く残されています。また、WPやDRにおいて最も重要であるスポンサーの確認がやや不十分であったように感じられました。時間制限がある中でも、最終確認を確実に行っていれば防げた点もあったと考えます。さらに、使用する動詞や句読点については、ルールブックを参照しながら作成することで、ミスをより減らせると思われます。

模擬国連は積極性や合理性が求められる非常に難しい活動です。そのような中、自国の代表として会議を無事に終えられた皆さんは、きっと大切なものを得られたことだと思います。今回の経験が皆様にとって思い出となり、成長の糧として今後に活かされることを心より願っております。フロント一同、引き続き皆様のご活躍を期待しております。本当にありがとうございました。

### 【最優秀初心者大使コメント】

Russian Federation大使 中央大学杉並高等学校 植木 俐花・中山 貴美子

～中山貴美子(中央大学杉並高等学校 2年)～

「AIと軍事」という議題を知り、担当国がロシアと分かった瞬間、不安でいっぱいでした。規制推進派が大半の中、規制反対派であり、現実でも攻撃を行っている国という立場は非常に難しく、校内デモンストレーションでも孤立してしまいました。そこで味方国を増やすことを最優先に、全ての国のNPや状況を調べ、欠かさずメモを作成しました。本番では孤立気味ながらも全ての大使に声をかけ、先進国として途上国や紛争国を味方につけられました。2日目には4つのWPをロシアでまとめ、流れの主導権を握ることに成功しました。最後はギリギリながらも議論を最大限盛り込んだDRを提出し、正式な決議として採択され、とても嬉しかったです。難しい立場だったからこそ模擬国連の本質や楽しさをもぎこっかーとして実感でき、今後も積極的に参加してその魅力を発信していきたいです。

～植木俐花(中央大学杉並高等学校 3年)～

今大会を振り返ると「一片の悔いなし」という言葉がぴったりです。模擬国連の醍醐味はスポンサー集めの駆け引きや交渉、心理戦にあると思います。大会前は、担当国ロシアが「AIと軍事」という議題で人集めに苦戦すると予想し、苦しい会議になると覚悟していました。しかし、偏見なく話を聞いてくれた皆さんのおかげで、国連本来の「世界全体で課題を解決する姿勢」をとることができ、とても嬉しく感じました。2

日目の最後、多くのスポンサーに囲まれ、それぞれの特技を生かしてDRを作成・提出した瞬間は、模擬国連ならではの達成感と充実感に満たされました。今後は後輩にもこの面白さを伝え、AJEMUNをより盛り上げていきたいです。最後になりますが、大会開催にあたり多くの準備を重ねてくださった運営の皆様、そして関わってくださったすべての皆様に心から感謝します。ありがとうございました。



E議場の皆さん

## F議場

### 【フロントより】

武南高等学校2年 史 馨茹  
玉川学園高等部2年 高田 幸尚  
洗足学園高等学校2年 三木 利彩

皆様、2日間お疲れさまでした。F議場のフロントとしての講評を以下に記させていただきます。

#### [議長]

初めてのフロントで不安もありましたが、大きなトラブルなく会議を終えることができて大変嬉しく思います。2日間を通して、相手の意見を尊重しながら、真摯な姿勢で議論を交わしていた光景が見られました。自国の国益を最大限に確保しつつ、他国とコンセンサスを目指して時には譲歩し、柔軟に対応していました。非常に優れた会議だったと思います。その反面、WPの作成で使われる動詞が使われていない、正しい位置にスポンサー国が書かれていないなど、初心者議場らしいミスが多く見られました。また、DRの提出時間直前まで議論を続けていたことも際立っていました。少しづかりアドバイスをさせていただきます。具体的には、会議書類の読み込みと時間配分に心がけることの2点です。会議の流れからWP/DRの体裁まで詳細に記載されたルールブックと会議細則は必読です。また

、DRの提出時間直前は、提出に向けて最終確認をするとよいでしょう。最後に、今回の会議が短い高校生活の中で楽しい思い出として残るよう願うと同時に、皆様の今後の活躍を期待しております。

#### [会議監督]

F議場では様々な観点から、各国の立場や価値観が鋭くぶつかり合う場面も多く見られ、フロント一同も非常に刺激を受けました。初日では、各國大使が自国のスタンスを崩さないよう、会場全体に緊張感とリアリティのある空気が流れていたことを覚えています。WP作成においては、自国のボトムとトップのバランスを模索する提案が多く見られ、複雑な課題に真摯に向き合う皆様の姿勢に感銘を受けました。2日目には、DRを通じて議場の意見が徐々に収束し、多国間での協調や国際ガイドラインの必要性について合意形成が進みました。多くの大使が積極的に発言し、他者の意見に耳を傾けながら柔軟にスタンスを調整していたことが印象的でした。フロントからのアドバイスにも丁寧に対応していただき、皆様の姿勢がこの議場の質を高めていたことは間違ひありません。最後にF議場の経験が、皆様の今後の視野をより広げるものになることを願っています。これから世界を担う皆様が、力強い対話を重ねていくことを、心から期待しています。

#### [セクレタリー]

AIと軍事利用をめぐる議論は、フロントを含め参加者全員にとって、国際政治の現状と未来を見据える貴重な機会となりました。大使の皆様には、本会議で得た経験を今後に活かし、知識や対話の力をさらに磨いていかれることを心から願っております。F議場は初心者議場であったため、当初は各國大使の積極性にやや不安を感じていました。しかし、会議が進むにつれ外交活動も増え、グループのWP/DRと自国の立場との違いを把握し、最適な行動を模索する大使の姿が見られました。最後の投票に向けて、公式討議の場で支持を得られるよう大使達が懸命に説明を行う場面もあり、非常に有意義な時間となったと感じております。2日間にわたり、質の高い議論を展開してくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

### 【最優秀初心者大使コメント】

Israel大使 神奈川大学附属中・高等学校 小出 風花・高山 由菜

今回私は初めて模擬国連に参加させて頂きました。今回の模擬国連は、私の人生の中で最も刺激を受け、考える事を楽しむことが出来た場所だったと感じています。そこで今回は三つの模擬国連の魅力について話そうと思います。

まず一つ目は、世界は自分が思ってるより何倍も広いんだと知れることです。今回の会議を通して私が仲良くなることの出来た大使達は、全国様々な場所に住んでいます。普段私たちは自分の

身の回りの人としか会話をしないため、忘れるがちのことですが、模擬国連で改めて自分の世界の狭さに気付かされ、世界の広さを認識する事が出来ます。参加しなければ一生出会うことの出来なかつた人達と出会うことが出来る。これが私の思う模擬国連最大の魅力であり、参加してよかったですと思える理由です。

二つ目は予期できないアクシデントに対応する力がつくことです。事前の準備に関わらずアクシデントは起こります。実際に私たちは他国の意見との相違からギリギリになって新たな決議案を作ることになりました。ここで即座に決議案作成と他国との交渉に手分けをしたことが決議案提出につながったと思います。最終的にはスポンサー国の不足から決議案は非受理となりましたが、提出まで持って行けたことに達成感を感じました。

三つ目は、学年関係なしに言いたいことを言い合える環境です。私達が生活する場には上下関係がありますが、模擬国連の議場の場において学年は全く関係ありません。それは、自ら主体的に議論に参加しようという意思と行動力をさえ持ち合わせていれば誰でも議論の中心になれるということだと思います。私は人前に立つことが得意ではないですが、一歩踏み出し、話しかけたことが今回の成功に繋がったと思います。せっかく模擬国連に来たのだから、傍観者になるのは勿体ないです。多くの人と話し、議論、交渉する事は初めてだったので、貴重な経験が出来てとても嬉しく思います。



F議場のみなさん

## G議場

### 【フロントより】

渋谷教育学園渋谷高等学校3年 斎藤 央

帝京高等学校2年 松本 菜奈

渋谷教育学園幕張高等学校3年 多田 大

今回の会議では、「AIと軍事」をテーマに、参加国の代表がそれぞれの立場に基づいて議論に臨んでくれました。AIという複雑で難しいテーマにもかかわらず、各国代表が自国の利益だけではなく、地球全体の未来を見据えた発言や提案をしていたことがとても印象的でした。議論初期では、論点1である「AIの規制について」を話し合っている様子が見受けられました。AIの軍事利用をどこまで認めるかという価値観の違いから、3つのグループに分かれて議論を進めていました。軍事AIの規制をなるべくかけたくない国と、強めにかけたい国では、根本的な立場の違いがありました。その中でも致死性自律型兵器(LAWS)に関する議論ではフロントにもたくさんの質問が届き、混乱している様子でした。しかし、そんな状況でも自国の国益を守りながら議論し、外交を通してそれぞれが歩

み寄る姿勢がありました。発言に関しては、どの大使も高い情報収集力と論理的思考を發揮し、自国の立場や課題をわかりやすく伝える工夫が見られました。中でも、単に自国の利益を主張するのではなく、国際社会全体として枠組みやルール作り、新機関の設立の必要性を訴えている発言が印象的でした。WPの質疑応答の時間では、毎回同じ大使が質問をし、同じ大使がその質問に答えるという状況が続いていたため、なるべく違う大使が質疑応答をしたほうが議場全体の理解が深まり、DR作成に役立てるのではないかと感じました。スピーチに関しては、それぞれしっかりとリサーチをし、完成度の高いものだと感じました。一つ改善点を挙げるとしたら、スピーチの順番によって、スピーチの内容を臨機応変に変えるとともに良くなるのではないかと感じました。しかしあとで、たとえDR提出前だったとしてもだれも作業を行わず、真剣に聞いている様子が、当たり前だけど一般議場ではなかなか見ることができない光景です。結果、終始会議は和やかに進んだと感じています。今回参加した大使には、その初心の心を忘れず、続けてほしいです。決議案の作成過程では、条項ごとの表現調整や立場の違いを尊重しながら、最終的な文言をまとめていく過程に、多くの大使が積極的に関わっていました。最後に、今回の議論を通して見えたのは、AIと軍事という非常にセンシティブな問題に対し、決して感情論ではなく冷静に、多様な立場からアプローチしようとする大使の姿勢です。国際政治のリアルさ、コンバインの難しさ、そしてそれを乗り越える対話の力をこの会議で実感することができたと思います。フロントとして大使の皆さんを見守り、調整役を務める中で、未来を担う皆さんとの視点と可能性に深く感銘を受けました。今後も模擬国連という学びの場を通して、国際問題に対する関心と解決力をさらに高めていってほしいです。

### 【最優秀初心者大使コメント】

New Zealand大使 海城中学高等学校 中川 侑志・竹村 是清

ニュージーランド大使の海城中学校3年の中川侑志と竹村是清です。

まず、会議参加に関わって下さった全ての方々に感謝申し上げます。

中川侑志

自分はこの1年間で、大使として成長できているのか。中学3年になる前、常に僕の頭から離れないかった疑問はこのことだった。模擬国連を始めて2年が経ち、自分自身の所謂「強さ」に疑問と不安を持っていた。そんな時、初めて全国の同世代が集まる全国大会に参加できることが決まった。その時僕は今大会の結果がいかに辛い現実を突きつけられるものだとしても、自分のベストを尽くして、今後ライバルとなる同年代と比較した時の自分自身の「強さ」がどれほどのものなのかを見極めることを今回の会議の目標にしようと考えた。そして、会議準備から会議行動まで、全てにベストを尽くした。その結果として、嬉しいことに最優秀大使賞を獲得できた。模擬国連における「強さ」というものは、目にみえるスコアにはならないし、そもそも「強さ」などというものを定義するべきではないという意見もたくさんあるだろう。しかし、僕はその目に見えない「強さ」とは何なのかを考え続けつつ、振り返った時にそれまでの自分の活動に自信持てることが最も重要だと思う。僕は今回の会

議で始めに定義した問に対する答えを得てこれまでの自分の活動を肯定できた。その時、嬉しさと共にこれから自分がどんな大使になれるのか、そのことに対する好奇心と高揚で一杯になった。改めて振り返れば、今回の会議は、自分が始めに設定した目標を達成しただけでなく、自分の中の模擬国連に対する考え方を見つめ直すことができた、本当に大きな成果を得られた会議だったと思う。

竹村是清

今まで参加した模擬国連の中で最も楽しく最も苦しかった会議がこの会議だった。この会議は結果的にDRを可決することもでき、最優秀賞も頂けたという、第三者が見たら「成功した会議」と言われるような会議だった。模擬国連は結果論に溢れている。どんなに深い議論をしても、DRが通らなければ、評価されない。逆に、運よく首の皮一枚繋がつた状態で可決されても「強い」という評価になる。模擬国連における「強さ」はどういう基準で測られるのか。それを僕は結果論だと思っている。ただ、僕がこの会議で感じた「楽しい」「苦しい」は議論の過程で生まれた感情だと思う。同じグループで最後まで議論し合った時間やグループが厳しい状態に置かれた時の高揚感、それが模擬国連の最大の楽しみであり、魅力だと思う。それを感じることができた会議だった。一方で、想像以上に強い同世代と真剣に向き合い、対立したときには、自分の力不足を痛感した。グループの人数が激減したときには、焦りや悔しさも感じた。それでも「楽しい」と思えたのは、会議準備を重ね、ペアとの連携がしっかりと取れていたからだと思う。

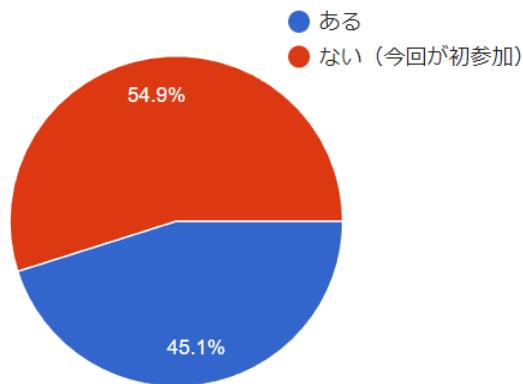
この会議を通じて、模擬国連の本質的な魅力を改めて認識することができた。



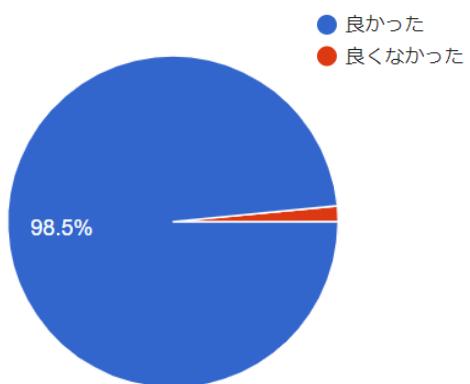
G議場のみなさん

# 参加者アンケート

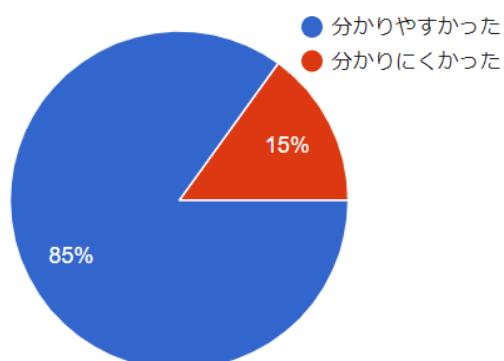
Q1 あなたはこれまでに模擬国連に参加したことがありますか？



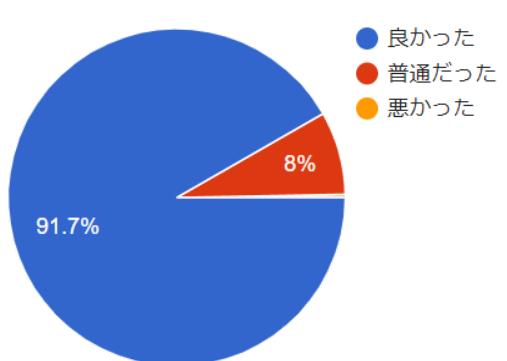
Q2 今大会に参加してよかったですか？



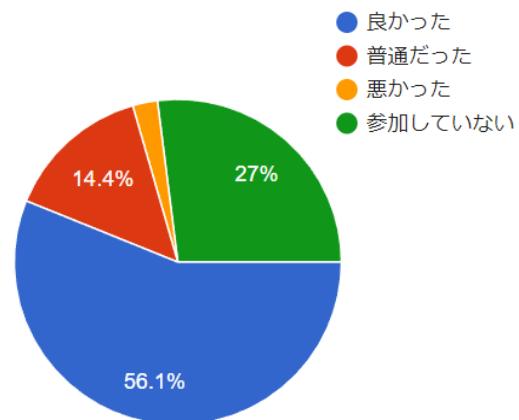
Q3 大会資料(BG・会議細則・HPの情報など)は分かりやすかったですか？



Q4 今大会の運営は高校生が実行委員となって行われていますが、実行委員の運営はどうでしたか？



Q5 交流会はいかがでしたか？



### 【良かった点について】

- ・フロントさんが解説を挟んでくださったので理解しやすかったです。
- ・事前に勉強会やBG説明会が開催されて、初心者でも議論に参加しやすい環境になっていたことが良かった。
- ・実行委員会の方々の誘導や大会運営などがスムーズで、初めてでも安心して議論に参加できること。
- ・普段話さない人たちと、一つの共通のテーマについて話す時間が大変有意義だった。
- ・模擬国連として必要な議論や交渉、ある程度の対立はあったものの、あくまで大使としての対立であり決して誰かを非難するものではなかったこと。
- ・スムーズに進行していただいたため、滞りなく話し合いができました。ありがとうございました！
- ・とにかくホームページが分かりやすかったです。また、インスタの実行委員紹介なども、ぜひ来年もやって欲しいです！

### 【改善点や問題点について】

- ・1日目の集合場所をもう少しあわかりやすいように資料に載せていただけたらと思いました。
- ・1日目の部屋が暑かったです。
- ・机が欲しかった
- ・マイクの少なさ
- ・決議書の書き方や書く際の使えない用語などが提出の直前になり発覚したことが多々あり、もう少し説明をしてほしいと思いました。
- ・pppが掲示される日時にズレが生じてしまった所。その日に公開される事を前提に動いていたため、予定が狂ってしまった。

### 【交流会について】

- ・昨年に比べてラフに話せてよかったです
- ・違った県の友達もできてThe交流会みたいで楽しかったです！！
- ・司会の先輩が面白かったです。
- ・中学生も含め色々な学校の人と話せて面白かったです！！
- ・席をランダムにするのがとてもよかったです！！
- ・自由交流の時間をもっと多く欲しかった
- ・席を決めていただきありがとうございました、メインの運営もしながら大変なのは重々なのですが、席をもう少し工夫して決めて欲しいです。
- ・議場ごとにやつたらもっと絆が深まると思う。

### 【今大会に関する感想】

- ・とても有意義に過ごすことが出来ました！ありがとうございました！
- ・初めてで緊張していたけれどとても有意義な時間になりました。楽しかったです。
- ・とても楽しく、模擬国連をもっと続けたくなった。今度はもっと発言したい。
- ・大阪から東京に来るということで不安も大きかったです、来て良かったと1日目の最初に思えるぐらいに今までで1番楽しく実りある会議となりました。
- ・本当に国を背負った大使として議論しているようでした。貴重な機会をありがとうございました。
- ・全国規模の大会ということで、今まで以上に実力のあるすごい大使が沢山いて、ものすごく悔しい思いをしました。ですが、今回の悔いと反省を糧に残りの短い時間をより有意義に使いたいと心から思いました！
- ・参加することができて、本当に、よかったです。議題に真剣に向き合って、集中して話に耳を傾け、話をまとめてくれたり、質問にきちんと答えてくれたりと素晴らしい大使の方々、円滑な会議のための司会進行、監督をしてくださった委員の方、さらに様々な情報をSNSなどで知らせてくださった広報委員の方、この大会に携わってくださった全ての人のおかげもあり、本当に、良い経験になりました。ありがとうございました。

# 大会事務局長より

第9回全国中高教育模擬国連大会(AJEMUN)大会事務局長  
浅野中学校・高等学校 宮坂 武志

第9回AJEMUNにご参加・ご協力いただき、ありがとうございました。

この大会は多くの高校生・中学生に模擬国連を体験してもらうため、私たち全模研に所属する中高教員が中心となり、第1回から今大会まで開催してまいりました。しかし、実際の準備・運営においては、毎回、全国から応募してくれた高校生の実行委員たちが、主体的に積極的に取り組んでくれるおかげで、ここまで続けることができています。

今大会も30名以上の高校生が3つのセクションに分かれ、大会が成功するよう数か月前からオンラインでの打ち合わせをつづじて、入念に準備を重ねてまいりました。そして、この大会当日も各議場や開閉会式などで、議事進行を担うフロントや運営・広報スタッフの実行委員(高校生)が目覚ましい働きぶりを見せてくださいました。本当にありがとうございます！

また、協賛・後援していただいた企業・団体の皆様はじめ、この大会の開催に関わっていただいたすべての皆様のご支援・ご協力をいただき、2日間の大会を無事に終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

今大会の議題は「AIと軍事」という、これからを生きる中高生の皆さんにまさに今、熱く語り合うべきテーマです。この2日間、大使の皆さんは真剣に議論・交渉をくりひろげ、それぞれの決議案を作成してくれました。しかし、数年前まで、このテーマの緊急性と重要性を自覚できていた人は、この世界にどれくらいいるでしょうか。

大会プログラムでもふれましたが、今年は国連の創設80周年です。大会閉会後の翌日は8月6日で、80年前のこの日、広島に原爆が投下されているのです。そのとき、すでに国連憲章は調印されました。よって国連は創設時に、核兵器という大量破壊兵器とどう向き合うかという課題を突きつけられていたのです。

それから80年。この間、核兵器以外にもさまざまな新兵器が開発されました。なかでも今回の議題であるAI兵器(AIの軍事利用)は、ここ数年で注目され、その規制や国際ルールの設定は喫緊の課題となっています。これに対しては、実際の国連でも早急な対応が議論されています。しかし、技術革新のスピードに、民主主義的な議論を前提とする国連が追いついていないように感じますし、そもそも議論や交渉を重ねて解決策を模索していく国連の手法は有効なのでしょうか。

現在、軍縮部門のトップで国連事務次長の中満泉氏が、あるインタビューで、技術の進歩のスピードに多国間での議論が追いついていないことを認めていました。しかし規範を作るための議論の場として、またそのプラットフォームとして国連の役割が再び重要なのだと語っていました。もちろん、いたずらに議論を重ねるだけでは解決の道は開けません。そのヒントとして、中満氏は別の機会に重要なキーワードをあげています。何かが解決に向かって動き出すために必要なこととして、「モメンタム」という語です。「チャンス」でも「ムード」でも「タイミング」でもない、「モメンタム」という言葉。日本語で「機運」と訳し、経済用語では株式相場の勢いやはずみを意味するようです。これを、自然と目的に向かっていく全体の動きと解釈するなら、皆さんはこの大会で議場全体を、もしくはグループをまとめる際に、「モメンタム」を醸成することはできましたか。強引な手法ではなく、また独善的でも切り捨てでもない、だれもが同じゴールにむかうように気持ちや条件をととのえていく。そのためにはあきらめない意志と根気、粘りづよい交渉が必須です。

今後、模擬国連に参加するときには、ぜひこの「モメンタム」を意識してみてください。回り道のようでは、実はもつとも物事が大きく動き、決まりやすい秘訣となるかもしれません。

皆様とまたどこかで会える日を、役員一同楽しみにしています。2日間、ありがとうございました。

# 参加校一覧 (以下114校)

青山学院大学系属浦和ルーテル学院高等学校	清教学園高等学校
浅野中学校・高等学校	成蹊高等学校
伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校	聖光学院中学校高等学校
市川学園 市川高等学校	聖心女子学院中等科・高等科
茨城県立竹園高等学校	清泉女学院高等学校
茨城県立並木中等教育学校	玉川学園中学高等部
江戸川学園取手中・高等学校	中央大学杉並高等学校
鷗友学園女子中学高等学校	土浦日本大学高等学校
大阪府立北野高等学校	土浦日本大学中等教育学校
大阪府立水都国際中学校	帝京高等学校
大谷中学・高等学校	帝塚山学院泉ヶ丘高等学校
大妻中学高等学校	帝塚山学院中学校高等学校
大妻多摩高等学校	田園調布学園高等部
お茶の水女子大学附属高等学校	田園調布雙葉高等学校
海城中学高等学校	天王寺学館高等学校
開成高等学校	東海高等学校
海陽中等教育学校	東京女学館中学高等学校
かえつ有明高等学校	東京都市大学 等々力中学校・高等学校
鹿児島情報高等学校	東京都立桜修館中等教育学校
学校法人角川ドワンゴ学園 S高等学校	東京都立小石川中等教育学校
学校法人角川ドワンゴ学園 N高等学校	東京都立武蔵高等学校
神奈川県立厚木高等学校	東京農業大学第一高等学校
神奈川大学附属中・高等学校	東京農業大学第三高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校	東洋大学附属牛久高等学校
神奈川県立横浜清陵高等学校	徳島県立城ノ内中等教育学校
岐阜県立岐阜高等学校	栃木県立佐野高等学校
岐阜県立多治見北高等学校	鳥取県立倉吉東高等学校
佼成学園女子高等学校	鳥取県立米子東高等学校
公文国際学園中等部・高等部	鳥取県立鳥取東高等学校
クラーク記念国際高等学校	長崎県立佐世保商業高等学校
クラーク記念国際高等学校 SMART千葉	名古屋中学校・高等学校
群馬県立中央中等教育学校	新潟県立直江津中等教育学校
恵泉女学園高等学校	西大和学園高等学校
甲府西高等学校	広島県立広島叡智学園高等学校
神戸国際高等学校	フェリス女学院高等学校
国際基督教大学高等学校	福井県立敦賀高等学校
小林聖心女子学院高等学校	不二聖心女子学院高等学校
駒込中学高等学校	富士見丘中学校・高等学校
駒場東邦中学校・高等学校	富士見中学校高等学校
済美高等学校	武南高等学校
酒田南高等学校	法政大学国際高等学校
桜丘高等学校	北陸学園北陸高等学校
札幌日本大学中学校高等学校	松商学園高等学校
自修館中等教育学校	宮城県仙台二華高等学校
実践女子学園中学校高等学校	三田国際科学学園
渋谷教育学園渋谷中学高等学校	三輪田学園高等学校
渋谷教育学園幕張高等学校	茗溪学園中学校高等学校
嶋田学園飯塚高等学校	森村学園中等学校
島根県立出雲高等学校	八千代松陰高等学校
昭和女子大学附属昭和中学校・高等学校	山形県立米沢興譲館高等学校
十文字高等学校	山形県立山形東高等学校
淑徳高等学校	山脇学園高等学校
頌栄女子学院中学校	横浜隼人中学・高等学校
昌平高等学校	横浜富士見丘学園中学校・高等学校
私立茨城高等学校	立教女学院高等学校
水城高等学校	立命館高等学校
逗子開成中学校・高等学校	早稻田大学系属早稻田実業学校高等部

# 大会実行委員一覧

## 【実行委員長】

斎藤 央 (渋谷教育学園渋谷高等学校)

## 【運営受付セクション】

田嶋万桜 (公文国際学園高等部)  
丸山莉子 (市立札幌開成中等教育学校)  
町田璃子 (お茶の水女子大学附属高等学校)  
谷口琳南 (清教学園高等学校)  
水木颯人 (玉川学園高等部)

小林愛希 (茗渓学園高等学校)  
石井虹衣 (帝京高等学校) \*広報兼任\*  
結城遙香 (茗渓学園高等学校) \*広報兼任\*  
大隅麗叶 (十文字高等学校) \*広報兼任\*

## 【フロントセクション】

中田侑之介 (浅野高等学校)  
二井春香 (渋谷教育学園渋谷高等学校)  
松本菜奈 (帝京高等学校)  
江尻あい (鷗友学園女子高等学校)  
大久保鈴音 (淑徳高等学校)  
山田里奈 (茗渓学園高等学校)  
小島杏里 (渋谷教育学園渋谷高等学校)  
史馨茹 (武南高等学校)  
伊藤佳那子 (聖心女子学院高等学校)  
平松佑菜 (岐阜県立岐阜高等学校)

萩原育斗 (中央大学杉並高等学校)  
久保あいり (清教学園高等学校)  
ハサンザディビタ (玉川学園高等部)  
朝倉菜摘 (三輪田学園高等学校)  
三木利彩 (洗足学園高等学校)  
前原悠作 (岐阜県立岐阜高等学校)  
松澤凜歩 (玉川学園高等部)  
高田幸尚 (玉川学園高等部)  
多田大 (渋谷教育学園幕張高等学校) \*広報兼任\*

## 【BG担当】

福岡加帆 (共立女子高校) \*フロント兼任\*  
北川眞子 (共立女子高校) \*フロント兼任\*  
鈴木花果 (共立女子高校) \*フロント兼任\*

## 【広報セクション】

吉野紅彩 (大妻高等学校)  
結城遙香 (茗渓学園高等学校) \*運営受付兼任\*  
石井虹衣 (帝京高等学校) \*運営受付兼任\*  
大隅麗叶 (十文字高等学校) \*運営受付兼任\*  
多田大 (渋谷教育学園幕張高等学校) \*フロント兼任\*

\*\*\*太字はセクションリーダー

## 【大学生サポートスタッフ】

菊地実咲 法政大学1年  
森彩葉 明治大学1年  
澤田碧砂 コロンビア大学院  
進藤虎太郎 中央大学1年  
宮山祥 早稲田大学1年  
中村 向我 東邦大学1年  
宮澤佑奈 早稲田大学4年  
谷田そよ 東京大学1年  
松浦唯夏 上智大学1年  
上野蘭晶 ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス  
和田大輝 慶應義塾大学2年



# 大会役員一覧

## 【大会事務局長】

宮坂 武志(浅野中学校・高等学校)

## 【運営受付セクション】

澤田 宏(県立岐阜高校)

内田 美穂(三輪田学園高等学校)

宮坂 武志(浅野中学校・高等学校)

仲川 英里香(逗子開成高等学校)

## 【フロントセクション】

飯島 裕希(お茶の水女子大学附属高等学校)

室崎 摂(渋谷教育学園渋谷高等学校)

後藤 芳文(玉川学園高等部)

末廣 彰(帝京高校)

松永 啓佑(市川高等学校)

齊藤 智晃(渋谷教育学園幕張高等学校)

## 【広報セクション】

米山 宏(公立小学校)

## 【BG担当】

松永 啓佑(市川高等学校)

齊藤 智晃(渋谷教育学園幕張高等学校)

## 【事務局スタッフ】

江口 花音(東京大学3年)

水谷 泰我(早稲田大学2年)

実行委員のみなさん



# 後援・協賛企業一覧

---

## 【主催】

全国中高教育模擬国連研究会(全模研)

## 【後援団体】(順不同)

外務省  
国連広報センター  
文部科学省

## 【協賛企業】(順不同)

株式会社 公文教育研究会  
株式会社 実教出版  
株式会社 第一学習社  
株式会社 帝国書院

## 【助成】

公益財団法人 公文国際奨学財団

## 【協力】

理想科学工業株式会社

# 次年度大会のご案内

---

次年度の第10回全国中高教育模擬国連大会(AJEMUN)についてご案内いたします。  
皆さま是非ご参加ください。

開催日時:2026年8月8日(土)、9日(日)

開催場所:国立オリンピック記念青少年総合センター

※予定は変更になる場合があります。



